

2026年11月「みちのおくの芸術祭」 山形美術館を主会場に開催

東北芸術工科大学（山形市上桜田/学長 中山ダイスケ）は、2026年11月、地域の芸術振興を目的として「みちのおくの芸術祭」を開催します。



MICHINOOKU ART FESTIVAL

「みちのおくの芸術祭」は、2014年から隔年で過去6回開催した「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」の後を受けて実施する、新たな芸術祭の取り組みです。

「みちのおくの芸術祭」は“やまのひかり”をテーマとして開催し、「市民公募 BOX アート展」などの市民参加型の企画のほか、ゲストアーティスト・在学生・卒業生による作品展示も予定しています。

※左記:「みちのおくの芸術祭」ロゴマーク

現時点での計画概要を別紙によりお示いたしますのでご参照ください（詳細は、決定次第順次公開いたします）。

この取り組みを多くの地域の方々にお知らせたく、ぜひ取材・広報のお願いを申し上げます。

■「みちのおくの芸術祭」

【日時】2026年11月5日（木）～15（日）の11日間

【会場】山形美術館、山形美術館前スクエア、

THE LOCAL（やまがたクリエイティブシティセンターQ1 内ギャラリー）

【特色】初の試みとして、

- ・一般の方から公募する「市民公募 BOX アート展」を開催（詳細別紙）
- ・ゲストアーティスト等による、開催テーマ「やまのひかり」に関連する作品の展示
- ・学生たちも作品出展や運営に参加

【詳細】別紙「開催概要」参照

- ・「みちのおくの芸術祭」開催概要
- ・開催コンセプト
- ・市民公募 BOX アート展「100のひかり」募集内容

■お問合せ先

東北芸術工科大学 地域連携推進課（担当：高橋） TEL:023-627-2218

配信元：東北芸術工科大学 法人企画広報課

TEL:023-627-2246 E-mail:public@aga.tuad.ac.jp

「みちのおくの芸術祭」開催概要

本学は、震災後の社会に役立てることはなにか、という問いに基づき、隔年開催の芸術祭「みちのおくの芸術祭・やまがたビエンナーレ」を、2014年度から6回開催して参りました。2026年度以降は「みちのおくの芸術祭」として、市民参加型企画を含む芸術祭を開催いたします。

■「みちのおくの芸術祭」の開催目的・概要

地域の芸術振興を目的として、市民参加型企画を含む芸術祭を開催します。

山形美術館を主会場に5つのパートで構成される展示プロジェクトを実施するほか、山形美術館前スクエアおよび大学が運営するギャラリーTHE LOCAL（やまがたクリエイティブシティセンターQ1内）を活用し、一体的な芸術祭の取組を行います。

1. テーマ：やまのひかり

2. 開催コンセプト（詳細別紙）：

本学は、2014年9月以来「みちのおくの芸術祭山形ビエンナーレ」を合計6回主催し、2年に一度の芸術祭＝ビエンナーレとして、東日本大震災以降の東北におけるアートとデザインの可能性・役割について実践的な取り組みを行ってまいりました。

地域が向き合うテーマも推移するなか、このたび「みちのおくの芸術祭山形ビエンナーレ」は隔年形式での開催にいったん幕を閉じ、2026年から「みちのおくの芸術祭」を正式名称とする持続可能な芸術祭として、ちいさく生まれ変わります。私たちはその第1回のテーマを「やまのひかり」と呼ぶことにしました（「山形市民の歌」からフレーズを引用）。「みちのおくの芸術祭2026」は、現在の山形県の形となって150周年となる本年、「やまのひかり」をテーマに新しく幕を開けます。

3. 開催地・会場：山形美術館、山形美術館前スクエア、THE LOCAL（やまがたクリエイティブシティセンターQ1内ギャラリー）

4. 会期：2026年11月5日（木）～15日（日）／11日間

5. 主な特徴：

- ① 学外の一般の方から公募する「市民公募BOXアート展」を開催します。
- ② ゲストアーティストによる、開催テーマに合わせた作品の展示を行います。
- ③ 山形美術館を主会場に、山形美術館前スクエアおよびTHE LOCAL（Q1内）においても取り組みを行います。
- ④ 5名の本学教員がディレクターを、杉の下意匠室がアートディレクターを務めます。
- ⑤ 学生も作品出展のほか、インターン生として運営に関与します。

6. **参加料等**：無料／一部有料プログラム有り

7. **運営体制**：

ディレクター：

三瀬夏之介（美術館大学センターセンター長／美術科 日本画コース 教授）

小金沢智（美術館大学センター研究員／美術科 日本画コース 准教授）

宮本晶朗（美術館大学センター研究員／歴史遺産学科 文化財保存修復コース 准教授）

加藤絵美（基盤教育研究センター 専任講師）

森一貴（企画構想学科 地域デザインコース 専任講師）

アートディレクター：杉の下意匠室

事務局：地域連携推進課

8. **主催等**：

主催：東北芸術工科大学

後援（予定）：山形県、山形市、山形県教育委員会、山形市教育委員会 協力：公益財団法人山形美術館

協賛等：各種企業・団体等への募集を予定

※上記以外の企画や参加アーティスト等の詳細については今後順次公開する予定です。

光はここに 山形

1992年4月に開学した公設民営の本学は、2014年9月以来、「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」を合計6回主催・開催し、二年に一度の芸術祭=ビエンナーレとして、東日本大震災以降の東北におけるアートとデザインの可能性・役割について実践的取り組みを行ってきました。いっぽう、山形県は2025年5月、1920年以来105年ぶりに人口100万人を下回り、厳しい人口減少の時代を迎えています。災害だけではなく、少子高齢化、若年層の県外流出が切実な課題となる昨今、アートとデザインには何が求められているのでしょうか？

このたび、「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」は二年に一度のビエンナーレ形式での開催にいったん幕を閉じ、2026年から「みちのおくの芸術祭」を正式名称とする持続可能な芸術祭として、ちいさく生まれ変わります。私たちはその第一回のテーマを、「やまのひかり」と呼ぶことにしました。

神武景気から不況への変動期であった1957年11月、山形市は「山形市民の歌」を制定し、山形県生まれの詩人・神保光太郎が手がけた歌詞には「光はここに 山形」というフレーズが見つかります。私たちはこのフレーズを、山形市内にとどまらない、山形の風土はもちろんのこと、ここに住まう人々が持っている創造と想像の力と解釈しました。

そのため、本芸術祭では、本学が招聘するアーティストだけではなく、広く市民・県民の皆さまへ作品の応募を呼びかけ、展示を構成したいと考えています。また、運営にはさまざまな専門性と好奇心を持つ本学の学生インターンを募り、教員と学生が一体となって企画・運営を行なっていきます。そして会場は、1964年8月の開館以来、山形県下の文化芸術の一翼を担ってきた公益財団法人山形美術館です。

2026年は、置賜県・山形県・鶴岡県の3県が統合され、現在の山形県となった1876(明治9)年から150周年にあたります。「みちのおくの芸術祭2026」は、2026年11月、「やまのひかり」をテーマに、皆さまの創造の「うつわ」になるべく新しく幕を開けます。

本展では、11月にも出品予定の、山形市内の魚市場で働きながら制作をされていた画家のスガノサカエ、そして本学文化財保存修復学科4年生多賀糸尊の作品を市民のクリエイティブとしてご紹介するとともに、アートディレクター杉の下意匠室による「みちのおくの芸術祭」ロゴタイプもお披露目いたします。

2026年4月

東北芸術工科大学 美術館大学センター

あなたの「ひかり」を、箱に詰めて。

あなたの中の「やまのひかり」を、箱に灯しませんか？

山形という土地を舞台に、文化の芽を育ててきた「みちのくの芸術祭 山形ビエンナーレ」が、ビエンナーレ形式(2年に一度)を取りやめ、新しく「みちのおくの芸術祭」へと生まれ変わります。そして、「やまのひかり」をテーマに第1回を開催する新しい祭りの主役は、表現を愛する皆さまです。ルールはたったひとつ。ひとつの箱の中に、あなたの思う「やまのひかり」を表現すること。飾るものは、どのようなものでも構いません。ご自身で情熱を注いで制作した作品、日々の暮らしで見つけた美しい景色、ずっと大切にしてきた宝物など。それら一つひとつは小さな灯かもしれません。しかし、100の個性が並んだとき、そこには誰も見たことのない、新しい「やまのひかり」が浮かび上がるはずです。その光をともに灯しませんか？

表現のプロフェッショナルも、ものづくりが好きな方も、山形での大切にしたい思い出がある方も、この「やまのひかり」という名の箱に、あなたの物語を込めてください。一人ひとりの創造力と想像力が、これからの山形を照らす光になります。皆さまのご応募を、心よりお待ちしております。

● 募集テーマ「やまのひかり」

山形ゆかりのもの・ことから、あなたが「ひかり」を見出したものを自由に表現し、「箱」の中で展示してください。「箱」を用いて表現できるものであれば、視覚表現(絵画、彫刻、写真など)はもちろん、小説、詩、短歌など、ジャンルは問いません。ただし、展示物をご自身の著作物ではない場合、展示にあたって著作権者の許諾を必ずご自身でおとりください。

※例: 山形の風景、伝統芸能、暮らしの知恵、未来への希望、大事な写真、大切にしている宝物など

● 展示形式: 2サイズの箱(下記のいずれかのサイズの「箱(フレーム)」内に作品を収めてください)

大サイズ[60×60×60cm] (予定)

小サイズ[30×30×30cm] (予定)

● 出品資格

年齢・学歴・地域等不問。みちのおくの芸術祭2026「やまのひかり」を一緒に盛り上げたい方。

搬入・搬出のため、指定日時に美術館まで来ることができ、ご自身で作品の搬入・展示・搬出ができる方。

作品が公序良俗に反する場合や、応募時の内容と大きく異なる場合は、展示をお断りすることがあります。

● 募集人数: 100名(先着)

応募フォームからお申込ののち、出品資格に合っているか、記載事項に不備がないかを主催者が確認の上、随時、メールにてご連絡を差し上げます。

● 出品料: 無料

ただし、展覧会場での作品売買はできません。

● スケジュール

応募期間: 2026年6～7月(予定)

展示期間: 芸術祭開催期間中(11/5～15)

搬入期間: 2026年11月2,3日 それぞれ10:00～17:00(山形美術館にて)

作品返却: 2026年11月16,17日 それぞれ10:00～17:00(山形美術館にて)

● 備考

応募フォームは後日、大学ウェブサイトでお知らせします。

ご不明な点、ご心配な点は、事前にお問合せください。